
Free World

Dream Neon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Free World

【Nコード】

N1747W

【作者名】

Dream Neon

【あらすじ】

自由なウタで創った世界。Free World。

このウタはどこまで響くだろうか。

感想や評価、アドバイス等お願いします。

REVERSE

今のこの状況がいやなら変えようじゃないか。

考えただけで、結果が分かかってしまうことなら変えようじゃないか。

悲しみの未来が待っているのなら変えてしまおうじゃないか。

REVERSE

逆転。

状況を

結果を

未来を

逆転させてやる。

REVERSEは

過去に戻るんじゃない。

道を振り返って歩むんじゃない。

変えてやるんだ。

逆転させてやるんだ。

CHANGE

コレとは違うよ。

交換するわけじゃない。

入れ替えるんじゃない。

REVERSE

戻ってやり直すんだ。
逆転させてやるんだ。

そのために歩むんだ

。

神様が忘れた道

その道が正しいなんて誰も知らない。

神様は道を作ったけど、

たくさん人の道を作りすぎてもう忘れちゃってる。
だから、そこに何かがあるかなんて誰にも知らなくて

自分の目で見に行くしかないんだ。

もし落とし穴があって落ちてしまったら。

穴を昇ってまた同じ場所に戻るのもあり。

ずっと穴にいるのもあり。

もしかしたら、その穴から続く裏の道があるかもしれない。

何処に行くのも。

何をするかも。

それは自分の決断で決まっていくな。

神様は道筋を知らない。

だから教えてくれない。

神様はただ傍にいるの。

共に歩いていく人なの。

この先の道に“幸あれ”と望むけれど、

幸にも苦にも道のせいではなく、

自分の行動なのだ。

今を歩き、未来を手にするのは
自分なのだ。

そのことに気付いたとき
神様は道を光り輝かせるのだ。

後悔の穴

後悔したんだ。

どうしてあの時

大切な物を手放してしまったのか。

それはきつと

その時は何も想っていなかったから。

そこにあつても心に仕えとなり混乱させられたものだから。

それは未練に残る物だったから。

なんて理由で手放して、

消えてしまった。

後悔。

今なら、大切な物になっていただろう。

残しておけば、思い出せる物を。

そこにあつた事実。過去。

もう無いと後悔。今。

どうして残さなかったのか。

その理由は簡単。

未来が分からなかったから。

未来が分かっていたなら

あの時手放すことはなかった。

それだけだ。

だけど、分かるはずがないんだ。

予想もつかなかったことが起きたこと。

今を後悔してる。

何も戻らない。

何も変わらない。

あの時考えていた未来。

それとは大きく外れて、胸に大きな穴を開けたままこの道を歩いてる。

戻りたい。

だけど、足は前にしか動かなくて

だけど、止まることしかできなくて。

だけど、ここから歩いた道を振り返るだけで。

後悔してる。

未練がある。

そのまま歩いてる。

もう戻れないから。

もう戻らないから。

この道をただ歩む。

きっといつか、この穴を埋める物が
見つかるまで …。

祈ります。私を憎む人へ

私を憎む人とは

どれほどいるのだろう

私の存在で苦しむ人は

どれほどいるのだろう

私を憎むなら憎めばイイ

だけど苦しまないでほしい

私の何を嫉むのか

教えてください

私が 改善しよう

そうすれば何かが

変わるんじゃないかな

恨まないで 憎まないで

そんなことは

あなたにはきつと無理だと思っから

私が 変わるべきなんだ

だけど何があなたを

そうさせるかはわからないから

私に教えてください

私と話すのも
嫌だとは思っけれど

だけど苦しまないでほしい
悲しまないでほしい

私のことで悩まないで

だけどそれは
祈るだけ

私の声は
あなたには聞こえないでしょう

聞きたくもない 声を
知りたくもない 思いを

私に死ねと望むなら それで私は死ねばイイのか
私の存在を無くせば 全て終わると言うのだろうか

何を改善して良いのかも解らないまま
私は去って行かなければならないのか。

どれほど憎み、妬み、恨み、苦しみ、悲しみ

私には解らないから

だって私は あなたを嫌いじゃないもの。

どうか苦しまないで。

どうか悲しまないで。

何をすればいいのか

教えてください。

そしていつか笑ってください。

この思いは届かないけれど。
祈ります。

闇の中で眠る者よ

トクン…トクン…

鼓動の音を立てて
闇の中で眠る者よ

命を受けられた者
未来に生きる鼓動

そんな希望を抱く
光の命を持つ者が

死ぬシカクなんて
アルハズ無イノニ

何故、未来を歩く
足を地に着かせる
事さえ許さない？

どんな闇の中でも
小さな夢を願って
祈り叶える事さえ
許さないのだ……

どんなヒトにでも
未来というものが
希望というものが

何故未来を見れぬ

闇の中で眠る者よ
そなたのミライを
幸せにすることは
出来るのだろうか

ただヒカリの道へ
進めるようにしか
願うしかない私を
許してください。

愛する我が子……

どうか天の国へ。

背負う命

望まれぬ命など無い。
皆望まれて産まれた命。

それなのに、
望んでも産まれることが
出来なかった命がある。

望まれて産まれてきた自分たちが
軽々しく生きること疲れ、諦め、
命を捨てるなどあつてはならないのだ。

誰もが望まず、
それでもたった一人に望まれ
産まれてきた命だつて
たった一人でも望まれ
産まれて来れたことに
感謝するべきなのだ。

どんな事があつても。
どんな状況であつても。

ここに生きられること。
精一杯生きていくこと。

それがこの世界に
産まれることが出来なかった命へ
報いることが出来るのではないか？

私たちはたくさん命を背負っている。

空に夢を

いつか大空を飛んでみたい。

人が空を飛べないなんて誰が言った？

夢を持ったっていいじゃない。

手を広げて、いつまでも続く空を

自由に、自由に飛ぶ。

風を切って、くるくる回って

子供が はしゃぐように

大空で はしゃぐように

好きなように 飛んでいく。

何処まで飛んでいこうかな。

空は何処にでも繋がっているから。

疲れたら、羽がそつと落ちるように

足を降ろして、地へと戻る。

私たちは地に生きるもの。

だから、空にも生きてみたいと

夢を見るのはおかしいかな？

真実の狭間

怖い。

真実を知るのが。

真実を知ることが

本当に良いのか

それとも後悔してしまうのか。

真実を知って

この気分は軽くなるのか

それとも重さを増すのか。

光に救われるのか

闇の中に囚われるのか。

今その狭間にいるんだ。

道は二つ。

知るか否か。

最終的に決めるのは

他でもない自分なんだ。

何が正解なんだろう。

真実は一つと言っければ
その一つを見出すことに
どれだけ悩めばいいんだろう。

望むことなら

良い真実に

気分すら軽くなって

光の世界でありたい。

ああ。この願いは届くのか。

今、真実を知る。

信頼

ねえ知ってる？

信頼を失うことってすごく簡単なことなんだよ。

でもね。

信頼を築く事って

数日や数ヶ月なんてものじゃなくて

何年も何十年も掛かって

そうして得たものが信頼なんだ。

それをさ。

一瞬で信頼を失うっていうのは

せつかく登った階段から足を滑らせて

どん底まで落ちることと同じなんだよ。

階段を、二段、三段飛ばしで登ったって

今いた場所まで戻るには、

あと何万段、何億段登ればいいのか？

信頼を失うって怖いこと。

だから、今の関係を崩さないように、
壊さないようにしている自分がある。

期待

期待なんかするな

その期待とは違う結果が出たとき

絶望するのはお前なんだぞ

いや、絶望までではなくとも

悲しみを覚えるだろうな。

事実上の結果に

後で絶望するなら

始めから期待なんてしないほうがイイ

結果だけを待つんだ

結果だけを求めるんだ

それがイイと思うのに

お前は楽しいことが好きだから

今を盛り上げて

結果を待とうとする

結果が期待通りなら、喜ぶだろうな

跳ね上がった

じゃあ、その逆はどうだ？

期待するから

悲しくなる

虚しくなる

苦しくなる

いつだってそうじゃないか

何度味わえればいいんだ

全く、呆れちゃうよ。

それでも期待してしまうのが
人なんだと、お前は言う

お前は 俺の心 …は、
結果だけを望んでない

全ての感情があつて

“幸せ”とは何か分かるんだと、

だから期待するのは、良いことで楽しいことなんだ。

そう言った

そう、俺の心が言った

溜めイキ

吸い込んで溜めた息が、まとまって出ていく。
それだけ。それだけのこと。

でも違うんだ。

なんだか疲れて。

面倒臭くて。

なんだか寂しくて。

物足りなくて。

今はこんな息。

でもそんな息は吐きたくないんだよね。

あの時は不思議な息。

なんだか苦しくて。

嬉しくて。

なんだか幸せで。

愛おしくて。

あんな息。

生きている感じがしたんだ。

このために生きているんだと

今になって分かるよ。

そのために生きたいんだと

ココロが疼く。

生きて生きて息を付く。

そんな溜めイキを求めて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1747w/>

Free World

2012年1月6日16時46分発行